

㊦ (小計 62点)

問一(14点) これまでは仲間はずれにされたことがなく、とうさんの話を少し大げさだと思っていたが、自分のことをみんながよそもんと思っていたことを知り、ショックを受け悲しむ気持ち。

問二(10点) みや子は、健ちゃんに「よそものではない」とはげまされてやる気になり、さらに鹿踊りのおはやしをきいて感動したことで、自分もその仲間に入っておどりたいと思ったから。

問三(12点) 家族が牛の世話などの仕事を一生懸命する姿が目につかび、自分も手伝いをしなければならぬのに、間に合わなくなってしまうので焦っているということ。

問四(10点) 仕事を優先してみや子に寂しい思いをさせてきたことを後悔し、今けがをしてつらい思いをしているみや子をなくさめたいという気持ち。

問五(16点) ⑤では、来年は健ちゃんと一緒におどれないので悲しく思っているが、⑥では、健ちゃんの立派なおどりを見て、夢の中で一緒におどったことを思い出し、来年、健ちゃんにほめられるように頑張っておどることを決意している。

㊧ (小計 28点)

問一(14点) 身ぶり手ぶり、表情などの視覚的なコミュニケーションによる段階から、より効率のよい伝達手段として音声言語が誕生したという考え方。

問二(14点) ヒトは身体模倣能力が高いため、身ぶりに一定のルールをもたせ、多数の仲間と共有し、その背後にある心の状態も理解し、伝え合うことができるから。

㊨ (小計 10点)

- (2点×5)
- | | | | | | |
|-----|----|-----|----|-----|----|
| (1) | 固辞 | (2) | 取捨 | (3) | 歴訪 |
| (4) | 独奏 | (5) | 湯治 | | |

問題本文は、著作権の関係で本日は配布しません。
なお、出典は次の通りです。

㊦ 石井和代『山の子みや子』
明和政子『まねが育むヒトの心』